

事業名

地域で子どもを育てる“郷育ネットワーク”

目 標

地域と学校のつながりを深め、地域の将来を担う力を持った子どもたちを育成する

1. 取組の視点

従来から、学校園と地域とのつながりの強い地域であるが、近年児童生徒数が大きく減少してきている。このため人間関係の幅も広がりにくく、子どもたちのコミュニケーション力や自己表現力を育てることが急務となっている。

地域の方が、ゲストティーチャーとして学校の授業に参加し、子どもたちに豊かな経験の機会を与えることで、地域と学校のつながりを深め、地域の将来を担う子どもたちの確かな学力と豊かな感性を養う一助となるよう協力体制を整えているところである。

2. 取組の概要

小学校では各校がこれまで築いてきた地域との協力関係により、イチゴ摘みや養蜂体験、ウナギの放流、読み聞かせ教室などを行っている。また、両校が共通して行っている米づくり体験では、5月の田植えから9月の稲刈り、その後の収穫祭や、餅つき、しめ縄づくりなど、ほぼ年間を通し



相和大とんど

て協力する体制ができている。

特に本年度は、校区内の2小学校が来年度から統合することから、「相和大とんど」に両小学校

の仕方に道筋をつけることができた。幼稚園では体験の幅を、広げるため、他の幼稚園との交流や小学校との交流のほか本年度は中学生との交流の時間を持つこともでき、中学生も童心に帰って楽しい時間を過ごすことができた。



交通安全標識

また子どもたちの登下校の安全対策として、小学校を通じて保護者および地域の方に、見守り活動の腕章を配布したほか、地域の危険箇所への安全標識を設置するため、必要箇所にあわせて、電柱への懸架や立て看板など形状を工夫した標識を製作した。

3. 成果と課題

子どもたちにできるだけ多くの体験学習をとの思いで協力をしており、様々な活動で子どもたちの生き生きとした顔を見ることができた。大柳生小学校と相和小学校の統合により、複式学級の解消は図られる。来年度は、個々の学年に応じた支援の内容を考えていかなければならないが、これまで行ってきた活動を見直し、小学校のニーズに合わせて新しいしくみを再構築していくことが必要である。

事業名

自己を見つめ未来を切り拓く生徒の育成

目標

自己をしっかりと見つめ、自らの将来を切り拓くため、正しい職業観を持ち、自己の能力の伸長を図る力を培う

1. 取組の視点

本校は小規模校であり、そのため生徒たちは3年間を同じ学級集団で過ごすことになる。このため人間関係が固定化しやすく、考え方も狭くなる傾向がある。学校外からの講師を招いて、様々な体験活動を行うことで視野を広げ、将来の職業選択においてもより幅広い選択ができるようにしたいと考えている。また、教科外の活動を通して生徒たちがお互いの個性を尊重し、より良い人間関係を構築する機会としたい。

2. 取組の概要

各学年で、ゲストティーチャーを迎えての授業を行った。1年生は、7月に地元の陶芸家を迎え、轆轤を使った茶碗を製作した。焼きあがった作品は、2学期の文化祭に展示をして保護者だけでなく地域の方々にも見ていただいた。



椎茸ホダ木作り

そば打ち体験

また、11月には地域の協力を得て、「そば刈り・そば打ち体験」を行った。本年度はイノシシによる被害のため「そば刈り」に代えて「椎茸ホダ木作り」を体験した。地元の鳥獣害についても深く知る機会にもなった。

2年生は1学期に職業についての学習をしたあと、夏休みに職場体験学習を行っている。

11月には、地元講師による「フラワーアレンジメント体験」を行い、花を生ける心について講話していただいた。また「中華料理体験」では、

チャーハンづくりを体験するほか、人をもてなす料理の心についてお話をしていただいた。



フラワーアレンジメント

中華料理体験



面接とマナー講習会

篆刻実習

3年生は「面接とマナー講習会」を開催し、接遇マナーをはじめ、人に対しての話し方、姿勢など実演を交えて講義をしていただいた。また、美術の時間には、地元講師を招いての「篆刻実習」を行った。デザインの段階から適切なアドバイスをいただき、全員が興味を持って取り組むことができた。篆刻作品は印字した色紙とともに卒業式会場に展示をする予定である。

3. 成果と課題

多彩なゲストの方々には、専門的な内容のお話や実習をお願いしているが、各分野の講義だけでなく自分の生き方について、体験に基づくお話をしていただき、生徒たちにとっては職業と個人の生き方について考える機会となっている。

事業名

自然を愛し、地域とのふれあいを大切にする生徒の育成

目標

恵まれた自然環境の中で、自然を愛する心と地域の人々とのふれあいを通じて、豊かな感性をもった生徒を育成する

1. 取組の視点

豊かな自然に囲まれた学校で毎日の生活を送っているが、生徒たちがもう一度自分の周囲を見直し、学校や地域の自然を見つめなおし、清掃活動などを通して豊かさを守っていく心を養っていききたい。また、地域の人々との触れ合いも大切にし、郷土を愛する心を培うことを目指している。

2. 取組の概要

1学期、2学期に各1回の「美化ボランティア活動」として、通学路の清掃を行っている。生徒たちは体育大会の色分けにより、大柳生方面、相和方面に分かれてゴミ拾いを行う。県道沿いには、車からのポイ捨ても多く、毎回大量のゴミが集まる。毎日通学する道路をきれいにすることで生徒



通学路清掃

親子環境整備作業

たちの環境問題に対する意識も高まっている。

また、1学期の「美化ボランティア」と時期をあわせて、ベゴニアを植え付けたプランターを、地域の人々がよく訪れる農協や郵便局、公民館など6箇所に置かせていただき、感謝の声を寄せていただいている。

夏休みには、全校生徒、保護者による親子環境整備作業を実施し、草ひきや草刈りを行い、秋の体育大会に備えている。

2学期早々の文化祭は土曜日に開催し、地域で活動されているコーラスと太鼓演奏グループを招き、生徒たちの舞台発表と共演していただいた。

また、体育大会も土曜日に開催し、生徒の家族も大勢参加されるので、PTA種目や一般参加種



花いっぱい運動

卒業式に向けて

校区内6箇所へベゴニア

パンジーの植え付け

目を多数設定して、地域の方々との触れ合いの機会としている。

3学期は寒さも厳しく、寒気がゆるむのを待つて卒業式に向けての「花いっぱい運動」として全校生でパンジーの植え付けを行っている。全員で一斉に取り組むことで団結力も高まり、3年生には卒業が間近いことを自覚してもらう機会になっている。

3. 成果と課題

少人数のため、「美化ボランティア」や花の植え付けなどを全校で取り組んでいる。全員で取り組むことで生徒たち一人一人が学校や地域を美しくしようという気持ちも高まり、毎日の清掃活動にも熱心に取り組むようになっていく。

今後はさらに地域の方々と触れ合う機会を増やし、地域の方から生徒たちに声をかけていただけるよう工夫をこらした活動を増やしていきたいと考えている。

事業名

大柳生 地域ぐるみの子育てプロジェクト

目標

児童一人一人に、未来を拓く確かな学力とよりよい生き方を追究する力を育成する

1. 取組の視点

地域ぐるみの子育て体制が整う本校において、多くの地域の人とふれあいや体験学習をすすめることにより、主体的な学びの姿勢を培うことができる考える。米作りを主とした体験学習や歴史を軸とする地域学習をする中で、地域を知り郷土愛を育ませること、そしてより良い生き方を追究する児童の育成を目指していきたく考える。

本校も児童数減や情報化の普及により、コミュニケーション能力の低下が危惧されるなか、国語力の向上を図る必要があると考えられる。そこで、国語科の授業研究を本校の研修の柱とした。

2. 取組の概要

【国語科研修】教員の研修テーマを指導講師と共有することから始め、講師による模範授業を参観し、全学級担任が研究授業を行った。教材研究や授業構想も常に講師と全教職員で実施することで研修を深めることができた。

【地域の教育力を活かした体験的教育活動】

“地域学習”においては、校区を様々な視点から広く調べる中で、とりわけ地域の歴史に着目することとなった。学習を進める中で、1・2学期には、地域の「郷土歴史教室」の方を招いて調べたことを発表する機会をもつことができた。

また、教員の地域理解を深めるために地域の方々を講師として招聘し、校内研修を行った。



11月のオープンスクールでは、「郷土歴史教室」の方々をゲストティーチャーに迎えての学習



活動を実施し、保護者や地域の方々も共に学ぶ機会となった。

“米作り体験学習”におい

ては畦シートはりに始まり収穫に至るまで、年間を通して地域の方々に支援をしていただき、児童は大柳生の米作りの素晴らしさを体験することができた。



3. 成果と課題

体験学習発表会では、児童一人一人が学んだことや自分の考えを明確にかつ豊かに伝えることができ、表現力の確かな育ちを絶賛していただいた。国語科で培ってきた表現力を活かす場を設定することで、児童は表現することに自信をもち、日常生活においてもコミュニケーションへの積極性が見られ、自分の思いを伝えることができるようになってきた。

また、地域の方々の支援を得ながら大柳生の素晴らしさを知る学習を継続的に実施することにより、児童は自分の住む町に誇りをもち郷土を愛する心を豊かに醸成させることができた。

今後も教科学習と様々な人との出会いを大切にしたい体験学習を計画的に繋げながら、自分のよりよい生き方を追究していく力を育んでいかなければならない。

事業名

地域の知恵に学ぶ体験学習

目標

相和小学校で学んだことを誇らしげに語れる子どもの育成**1. 取組の視点**

学校評価において、同一メンバーで送る小学校6年間の固定した人間関係では、刺激が少なく活性に乏しいとの結果が見られた。この環境を克服していくには、子どもの視野を広げ、多くの地域の人々と触れ合い、そこに根付く人々の知恵や歴史、自然、文化等を体験的に学ばせ、いろいろな場面でその成果を発揮することが大切であると考えた。

そこで、地域で学んだことを誇らしげに語れる子どもの育成を目指して、次のような取組を行った。

2. 取組の概要

生活科や総合的な学習の時間（郷土なら科）では、地域の方々の協力により、ザリガニつりの体験、イチゴの栽培の仕方や苗作りの見学体験、ハチミツ作りの様子を見学するなど、実際に体験したり、自然体験学習を積み重ねてきた。



また、5年生の米作りでは、田おこし、田植え、草取り、稲刈り、脱穀等を地域の方のご支援により体験し、もの作りの大切さを学ぶと同時に友だちと協力して取り組むことができた。

福祉体験学習では、特別養護老人ホームのお年寄りとの交流会を行った。自分たちで考えた遊び

やトランプ、折り紙遊び等を通して、楽しく交流をすることができた。



1月12日には、民生児童委員協議会の方々や地域のボランティアの方のご協力により、「相和大とんど」を行った。子どもたちは、今年のを半紙に書き、竹につるして上げてもらった。また、残り火でお餅を焼くなど1年間の無病息災を願う昔から伝わる地域の行事を体験し、地域の方とのつながりを深めることができた。

3. 成果と課題

子どもたちは、自然体験学習、社会体験学習、地域との交流体験学習等を通して、それぞれの活動の中で培われた知識や技能にふれることができた。また、いろいろな人との関わりを深める中で、見守り支援していただいていることに気づくことができた。地域の方への感謝の気持ちをもつとともに、今まで以上に自分たちの郷土を誇りに思う気持ちがさらに強くなったように思われる。

今後も、このような「地域の知恵に学ぶ体験学習」を通して地域で学んだことを誇らしげに語れる子どもの育成を図っていくとともに、子ども自らが、保護者や地域の方々にその学びを発信していけるような取組を推進していきたいと考えている。

事業名

地域と連携・協働する環境美化活動

目標

地域に開かれたコミュニティースクールとしての役割を果たす**1. 取組の視点**

本校は、地元の子弟に教育をと、学舎から始まり、地域の教育機関として地域住民の期待を担って営まれてきた。現在は、児童数が減少し、複式学級を持つ小規模校となっているが、「地域の文化の火は消せない」との思いで、地域の活性化とともに、地域の方と連携・協働し、学校内外の環境整備・美化活動を推進することで、地域に開かれた「コミュニティースクール」としての役割を果たすよう、その発展を模索している。

そこで、本事業では、勤労生産の大切さを児童一人一人に学ばせることを目的に、保護者及び地域の方々と学校による校内環境整備奉仕作業や、栽培活動等を実施した。植木の剪定や花壇の土壌作り、肥料作り等を地域の方々と協働することで、キャリア教育の視点に立った学習の推進を図った。

**2. 取組の概要**

夏休み（8月29日）には、保護者や地域の方々と校庭の草抜き、校舎内のガラスふき、遊具などのペンキ塗り、樹木の剪定等の校内環境整備奉仕作業を行った。多くの方との協働を通して子どもたちは、勤労生産奉仕活動の大切さを体得することができた。

12月20日には、地域の方々をゲストティーチャーに招いて、お正月飾り作りを行った。地域の方が上手に藁をなわれる作業を目にし、子どもたちは最初は感心するばかりだったが、手取り足取り教わる中で、全員が何とかオリジナルのしめ縄を作ることができた。

高学年児童が、学校用に大きなしめ縄を作ってくれたほか、地域の方は「門松」も立ててくださった。

3. 成果と課題

児童一人一人が保護者や地域の方々との環境美化活動に参加したことで、勤労生産やボランティア活動の大切さを体得できた。

また、地域の多くの方々との触れ合いにより、キャリア教育の視点に立った教育（正しい勤労観・職業観）の推進も図ることができた。

このような活動をさらに継続していくことで子どもが自信を持って相和小学校の地域で学んだことを誇らしげに語り、大きく伸びてくれることを願っている。

事業名

「いのち あい ゆめ」はばたけ大柳生っ子

目標

豊かな心もち、主体的に活動する幼児を育む

1. 取組の視点

過疎化・少子高齢化が進み、広範囲から通園している超小規模園である。園児は、素朴で明るく素直に自分の気持ちを表現し、何事にも一生懸命取り組む。しかし、限られた集団の中での自己表現はできるが、多人数の場所に出ると委縮してしまい、うまくコミュニケーションがとれない状況も見うけられる。そこで多くの同年齢・異年齢の人々との交流を繰り返すことで、コミュニケーション力が育つと考え、交流会を実施してきた。様々な人との交流やいろいろな校園での体験を積み重ねていく中で、互いに刺激し合い、自己表現する力・抑制する力の基礎を培うとともに、たくさんの友達・地域の方々と一緒に遊ぶ楽しさを味わうことのできる取り組みを行う。

2. 取組の概要

小運動会・夕涼み会・わくわくABC・運動会・オープンスクール・おはなしの会・作品展・もちつき・昔遊びの会・生活発表会への参加・協力。また、他園や小、中学校の交流会等の案内を呼びかけてきた。どの活動にも、大勢の参加や協力が得られ、地域の幼稚園として理解を深めていただいている。園児たちは、多くの方に見てもらったり、ほめてもらったりすることで自信をもち、のびのびと自己表現できるようになってきている。

昔遊びの会では、万年青年クラブと民生委員の前で子ども一人一人が自己紹介を行った。1学期と違って、堂々と発表する姿に、大きな成長を感じた。



こま回し・まりつき・あやとりやゲーム、昔の生活や遊びも教えていただき、地域の文化に触れる機会となった。

地域の方が、月2回絵本の読み聞かせをして下さっている。園児は、お話の世界にひたり、夢中になってお話に耳を傾けていた。



栽培活動では、小さな種から育つ不思議さや苗から大きく育っていく成長の楽しみ・収穫の



感動、みんなで一緒に食べる喜びを友達・保護者・地域の方々と共感することができた。

3. 成果と課題

幼稚園・保育園・小学校・中学校・地域等様々な人々との交流を実施したことで、コミュニケーション力の向上や豊かな心が育成されてきている。また、さらに交流を継続していくことが望まれる。

地域の中の幼稚園として、園児たちが地域を好きになるとともに、育ち合う関係をつくっていくためにも、地域の小中学校との連携を密にし、地域の中の教育力を園の教育に生かし、生活習慣、規範意識や食育にもかかわる取組も進めていきたい。